

児童の人権作文に学ぶ

新年度に伴い、環境の変化を迎える人も多いのではないのでしょうか。今回は、4月から中学校に入学する赤松楓さん（作文成当時は上妻小学校6年生）の、小学校生活を振り返っての作文をご紹介します。

安心して過ごせる教室

私は、人前で発表するのが苦手です。日直で学習の始めや終わりの挨拶でさえ、緊張して声が出なくなることがありました。

「学習の最後に、前に出て発表します。」

先生の一言を聞いた日から、上手に発表できるか不安で仕方がありませんでした。クラス友達は、みんな人前でハキハキと発表することができているのですが、私は人前に立つ



と、緊張しすぎて声が出なくなるのです。友達みんなが見ていると思うと、この視線が、私の緊張をより強めるのです。

なぜ、私は人前に立つと発表できなくなるのか分かりません。家で練習する時は完璧で、発表したい気持ちでいっぱいなのですが、人前に立つと声が出なくなってしまうのです。いつか、私も、クラスの友達みたいに、ハキハキと発表できるようになりたいと、心の中でずっと望んでいました。

そんな私が、人前でハキハキと発表ができるようになったのは、五年生の後期の頃です。私は、とびはねるくらいうれしかったです。私が人前で発表できるようになった理由が三つあります。

一つ目は、自信がもてたことです。なの花教室や家で発表の練習をたくさんしました。

また、ペア学習で友達に話したり、グループでの発表をしたりして、少ない人数の友達の前では発表できるようになりました。少しずつ自信がつき、みんなの前でも発表できるようになっていきました。

二つ目は、友達が助けてくれたことです。私の発表が途中で止まってしまった時、クラスの友達が応援の言葉をかけてくれたり、私が発表できないうちまで待ってくれたりしました。私の緊張が減って声が出るようになるまで、何分もずっと待ってくれたのです。みんな嫌な言葉も言わず優しくかったです。

三つ目は、安心できたことです。クラスの友達が、私の言葉が出るまでいつまでも待ってくれるというやさしさがあって、安心できました。嫌な言葉や悪口を言わずに、待ってくれたから安心できたのではないかと思えます。

もし「遅い。早くして。」などと言われたら、悲しくなります。しかし、私のクラスの友達は、ちがいました。私をずっと待っていてくれたのです。私が発表するのが苦手な

ことをわかってくれて、ずっと待っていてくれました。

「こんな私に、嫌なこと言わないんだ。」そう分かると、私は、安心して、発表できるようになりました。

六年生になり、クラス替えがありました。担任の先生が私のことをみんなに話して、新しいクラスの友達の前でも発表することができました。そして、来年、私は中学生になります。その時、私みたくに困っている人に出会ってもいいかもしれません。そんな時は、私がみんなにしてもらったように、私もその人が安心できるように助けていきたいです。

寄り添ってくれる存在の大きさを感じた経験から、自分も困っている誰かを助けていきたいと考える赤松さん。こうしてつながっていく出会いは、人生を豊かにしてくれる宝物の一つではないでしょうか。